

会議等結果報告書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	314
		決裁期日	平成22年12月6日
名 称	上富良野町協働のまちづくり推進委員会（第9回）		
日 時	平成22年12月1日（水） 午後6時30分～午後8時3分		
場 所	保健福祉総合センター2階研修室B		
出席者	委員9人 町民生活課事務局2人 合計11名		

内 容

[進行：吉岡主幹]

吉岡主幹から、課長の欠席理由と欠席連絡のあった委員について報告。

あいさつ

三島会長： 前回の意見でお知らせ版のようなものを作成したほうがいいのではないかとということ、事務局でたたき台を作ってもらったので協議をお願いします。

吉岡主幹： 要綱に基づき、ここから先は会長が進行する。

議題

1 協働のまちづくり基本指針概要版について

内容の協議

吉岡主幹： 概要版の資料について説明。

- ・ たたき台を2つ用意し、1つは前回の概要版素材を若干修整し、写真や絵を加えたものでA3用紙2枚と多くなっている。
- ・ もう1つはA3用紙1枚に収まるように作り、「協働ってなに？」という部分と「どうして協働なの？」という部分を中心に作り変えており、二重丸を使っていくつかにくくっている。さらに「町民は何をするの？」や「行政は何をするの？」という部分を加えている。
- ・ また、前回の会議で何回も概要版を出すという意見もあったが、郵便代などがかかってしまうため1回で完成としたい。

久我委員： 「町民は何をするの？」という部分で「協働の窓口」という言葉が出ているが役場にそのような看板はあるのか。

吉岡主幹： そのような看板は現在ない。

久我委員： 今後そのようなものを付ける予定なのか。

吉岡主幹： 今後付けたいと思う。（庁舎入口案内表示及び自治推進班に「協働参画推進」という表示あり）

島瀬委員： この2つの案のどちらがいいかということだろうか。

吉岡主幹： そういうことでも、合わせたものでよい。

久我委員： 1枚のものの方が分かりやすいと思う。皆さんの意見はどうだろうか。

吉岡主幹： 2枚のほうは、前回概要版素材が元になっているので少し読みづらいかもしれない。

持安委員： 「協働ってなに？」と「どうして協働なの？」までは具体的でわかりやすいと思う。

しかしここには協働をするとどうなるかという部分が足りないと思う。しかし、1枚で納めることは厳しいのかと思う。

吉岡主幹： 字をもう少し小さくして、行間も狭めれば可能だと思う。実際に読んでもらえるものにしたい。

島瀬委員： 読んでくれるというものなら1枚のものだと思う。2枚もあると読みたくないと思ってしまう。

持安委員： 「行政は何をする」「町民は何をする」という役割の部分が一番話し合ったと思う。求めているものは町民にやってほしいことなので、そこをきちんと表さなければならぬと思う。2枚のものには「協働をしたらどうなるの？」という文章が載っているが、これを「町民」、「行政」などに分けて1つの文章で表してくれるといいと思う。これから求めている社会やまちはどうなんだろうということが、どこかに書かれていなければならないと思う。

吉岡主幹： 「協働をしたらどうなるの？」の部分を入れることにする。

久我委員： 「協働をしたらどうなるの？」という部分を「町民は何をするの？」「行政は何をするの？」の前に入れるといいと思う。そして「町民は何をするの？」「行政は何をするの？」という部分はもう少し詰めて最小限必要なものだけにするといいのではないか。

持安委員： 何をしたいかをはっきりしながら文章を考えていきたい。1つ気になるのが、「町民は何をするの？」「行政は何をするの？」の2つの関連性が少ないことだと思う。上富良野がこうなったらいいなという1つの例を選んで作ってほしいと思う。

松下副会長： 前から持安委員が言っているように、1つの物語のように作れば子どもたちでも理解しやすいと思う。前にも言ったが子どもたちでも読めるようなものだと誰でも理解できると思う。イメージとしては、家庭を想定して、家庭の中で話したものがだんだんつながっていくというパターンにしたらわかりやすいと思う。

吉岡主幹： それは「協働ってなに？」の最初の部分からだろうか。

松下副会長： 始めから家庭の中でそういう話をして流れていけばいいのではないか。そうすれば他人事のようにも感じないと思う。せっかく作ってくれたがこういう文章では取っ付きにくいと思う。

大内委員： 子どもも読めるものではない。

島瀬委員： 対象が子どもからお年寄りまでなので、みんなが理解できる内容でなければならない。

松下副会長： レベルを落とすのではなく、理解してもらえ言葉遣いや表現で作ってほしいと思う。親子の会話の中で説明できれば、子どもでも比較的理解しやすいのではないかと思う。

吉岡主幹： では、お父さんやお母さんにしゃべらせていくという形になるのだろうか。

松下副会長： 身近な問題を1つのテーマにし、家庭の中で会話してそれが協働のまちづくりというふうにしてほしいと思う。

持安委員： たえず子供が正解をいうようにすると面白いかもしれない。

久我委員： 全て物語のようにするというでいいのだろうか。

吉岡主幹： そういう意見である。今のものだと子どもが理解できるものには遠いと思う。

松下副会長： 例えば、はじめは子どもがお父さんに「協働、協働って言うけど協働っていったいなに？」というところからはじめていくといいと思う。

持安委員： お父さん、お母さんがいて、小学校4年生の女の子がいる。隣は一人暮らしのお年

寄りだと話を作りやすいかもしれない。そして役場職員も隣に住んでいて、話をしているかわからないことを聞きに行くということもできる。町内の人たちが集まったときに話すと来ていないおばあちゃんの話でも進めていける。

吉岡主幹： 協働の字が間違っているんじゃないかというところも入れてもいいかもしれない。

中澤委員： 子どもの10年後の様子なども入れていけば面白いかもしれない。

持安委員： 面白いと思う。理想の人を作ることができる。

平倉委員： 写真ではなく、お父さんお母さんの絵柄で作るといいと思う。

持安委員： 完成したらこの委員会で寸劇をすると面白い。

島瀬委員： 寸劇の理解度は高い。

吉岡主幹： 概要版の内容的には「協働ってなに?」「どうして協働なの?」「協働をしたらどうなるの?」というところを入れる。そして企業のことでも少し触れていきたいと思う。

持安委員： 家庭だけでなく地域でもいい。

平倉委員： 独居老人の話などもあると思う。

吉岡主幹： 近くのスーパーが閉店してしまって買い物に苦労しているということもある。

持安委員： 農協で買い物すると配達をしてくれる。

平倉委員： ふじスーパーでもやってくれる。

中澤委員： 農協で注文すると生産者が家まで届けてくれるというものもある。

持安委員： そういった町にあるようなものをつなげていけば企業なども書くこともできると思う。

松下副会長： 確かに買い物弱者が問題になっている。今、夕張と札幌でコープさっぽろが移動販売をしていて、これから全道に広げていく。

島瀬委員： 上富良野でも旭川かどこかの業者が移動販売をしている。

三島会長： 私たちも近所の6軒ぐらいで、スーパーを2時集合にして、買い物した人を車に乗せてあげている。そのうち運転できる人は二人しかいない。

持安委員： 最終的には向こう三軒両隣の絵に持っていくような形で家庭から始まっていくといいと思う。

島瀬委員： 昔はそうだったのだから、昔に戻るような感覚かと思う。

吉岡主幹： 少し難しい言葉があれば、子どもに質問させて説明することもできるので、欄外に説明を書くよりわかりやすくできると思う。

大内委員： それをつなげていけば問題の解決にもつながっていくと思う。

持安委員： 久我さんがワークショップ(10月3日開催)で言ったようにアパートは何軒かに1つはみんなの集まるコミュニティルームがあるといいかもしれない。

大内委員： そういうところを子どもが指摘すると大人も考えるのではないか。

久我委員： タイトルも変更するのだろうか。

吉岡主幹： 今使っている「住んでよかった、これからも住み続けたい」という言葉は自治基本条例でも使っている言葉ではある。

持安委員： 概要版をどこから物語にするか今一度皆さんの意見を聞いたほうがいいと思う。

島瀬委員： 前段の部分はかしこまった文章でないと、最初から物語風だとおかしい気がする。

「協働ってなに?」の部分まではある程度形になった文章のほうがいいと思う。

吉岡主幹： 「協働ってなに?」の部分から物語のように会話形式にするということでもいいんですね。

持安委員： 肝心なのは、町民や行政が何をすればどんな町になるのかなで、重きを物語のほう

に置き過ぎないようにしてほしい。

吉岡主幹： 会議の前に目を通してもらってその後、意見をもらって直したものを会議で示したい。

持安委員： どういったことを最終的な目標にするかを決めなければならない。先ほど言った向こう三軒両隣にするというのであれば、向こう三軒が全部つながっていい町になるという話にできると思う。郡部やアパートなど、問題があると思うが1つの例として作っていくといいと思う。はじめは家庭での会話で、そこから隣のおばあちゃんの話があったり、隣の人との話があったりして私ができることをできる範囲で落とし込んでいけばいいのではないかな。そして最終的にでき上がるのが向こう三軒両隣という形になればいいのかなと思う。

吉岡主幹： 向こう三軒両隣という言葉タイトルに使いますか？

持安委員： 中身で説明できればいいと思う。行事や地域、隣近所も出てこなければならない。そして企業の力、行政の力、個人の力のことを説明したい。たとえば寝たきりのおばあちゃんには何ができるかを考えると、動かないという特徴なので、見張りが必要となる。ようするに1人1人に役割がある地域になれば面白いと思う。そして次の段階に入ると、推進するためにどうするのかということ、やはりつながりだと思う。つながりのために町内会に入るなどの推進方策が出てくると思う。

吉岡主幹： たくさんのヒントとご意見をいただいたのでそれを元に作っていきたいと思う。

持安委員： 最初から作ろうとすると大変だと思うので、何を最終的な目標にするかだと思う。私（町民）は何をできるか、地域は、行政は、企業は、というふうに各々が何をできるか書いていくといいと思う。買い物で作るとしたら、おばあちゃんが買い物できないという話で、どこで出すかということ、家庭の会話の中で、隣のおばあちゃんが買い物にいけない話をさせてどんどん膨らませることができると思う。

松下副会長： 場面設定をし、1つの流れ図を作ってそれに当てはめていければ骨格を作っていくという方法でなければ難しいと思う。こういう流れでこういう会話があったというふうを作り、お年寄りがいればお年寄りの設定でこういう会話をするとか、買い物をするとか、1つの流れ図を作っていった中でセリフを入れながら「協働ってなに？」などを説明していけばいいと思う。

松下副会長： 完璧なものでなくてもいいのででき上がれば1度見たいと思う。

持安委員： フローチャートができ上がれば1度集まったほうがいいのかもしれない。セリフならいくらでも作れるし、配役もいくらでもできる。

2 今後のスケジュールについて

持安委員： 11回の時の会議の内容を具体的に教えていただきたい。

吉岡主幹： 概要版が完成してからということなので具体的に決まっているわけではないが、それが終われば、今役場でやっている事業を協働でやるべきかという事業の掘り起こしを協議したいと思っている。

3 その他

吉岡主幹： 基本指針はパブリック・コメントで意見がなかったので決定している。これを町長に答申して基本指針は終了となる。ただ、基本指針素案を作成した推進準備委員会は、委員一同として文章を付けている。今回もそのようなものを作りたいと思う。大分市は、各委員がコメントを載せていて中々面白い。また、町長に手渡しした後は、町長の挨拶文を入れて

正式にホームページに公開したり、希望者には印刷したものを配布したいと思っている。

松下副会長： 委員会としての全体の文章でいいと思う。

吉岡主幹： では、それができれば、皆さんに見ていただき、直したうえで、町長に出したいと思う。

三島会長： 次回会議の日程は、12月22日（水）午後6時30分からとする。

久我委員： 完成したたたき台は事前に送付して読んでから会議に参加できるともっと進みやすいと思う。

閉 会 [会議終了：20時03分]

上富良野町協働のまちづくり推進委員会 委員名簿

任期：平成22年6月29日から平成24年3月31日まで

9

	所属団体・機関の名称	氏 名	備 考	12月1日
1	住民会長連合会	上 村 勉		
2	住民会長連合会	松 下 力		
3	社会福祉協議会	持 安 弘 行		
4	NPO法人たんぼぼの会	三 島 功 士		
5	ふらの農業協同組合上富良野支所	瀬 川 英 樹		
6	商工会	境 一 義		30分遅刻
7	生活安全推進協議会	島 瀬 良 一		
8	女性連絡協議会	中 澤 正 子		
9	リフレッシュ・マイタウン・かみふらの	奥 田 哲 也		
10	公募	大 内 和 行		
11	公募	徳 武 良 弘		
12	公募	久 我 みち子		
13	公募	平 倉 範 子		

9